

イノベーション不要の時代から Pax Japonica へ

◆イノベーション不要の失われた 20 年

「日本人は、物真似あるいは改善・改良は上手だが、イノベーションに向いていない。だから、失われた 20 年、25 年になってしまった」などと言う人がいます。

グローバル企業は、従来なら国内で完結させていた研究、生産、販売と言った業務を最も効率の良い国々に分散させます。国内で売れている製品を消費地の地域、国に合った仕様に変更すれば事足りました。現行ビジネスで十分な利益があるのに、新しい製品のリスクを取って展開する必要はなかったのです。グローバル展開するのにイノベーションは要らなかったのです。いわば、イノベーションのジレンマのグローバル拡大版です。国内には買い替え需要しかないと考え、小手先の改良で済ましてきました。要するに、グローバル化、海外市場の獲得が第一でイノベーションや国内市場は放置されてきたと考えることができます。

◆何のための国内回帰

昨今、中国からの企業の撤退が取り上げられることが多くなっています。この現象をとらえてグローバル企業の国内回帰と言うマスコミ記事が散見されます。一部のエコノミストは、「そうではない。円安下の一時的現象で、現地生産、国際分業の基調は変わっていない」と冷静に分析しています。

それだけではないはずだと考えたいのです。人件費の安さだけで工場の移転を繰り返しては、進出する先々でもっと安く作れる現地企業を育てることになり、やがて市場から排除されます。海外で簡単に作れるものを作っていたのでは、日本式生産のコスト競争力は低下するに決まっています。その結果、日本で海外勢が簡単に追従できない新製品の開発が必要になっていると考えたいのです。そのための国内回帰であると思いたいのです。

イノベーション製品なら新規の正社員雇用増に繋がります。

◆日本全体がイノベーションを必要とし、世界が Pax Japonica を待っている

イノベーションが必要なのは、何もモノづくりだけではありません。課題先進国・日本は、高齢化社会入りやTPP対応もあって、国全体がイノベーションを必要としています。一次産業、二次産業だけではなく、三次産業も必要としています。

課題先進国日本にはニーズがあります。加えて、世界に冠たる省エネ技術、環境対策技術もあり、未だ、モノづくり精神も生きています。

今、海外からの観光客が増えています。我が国が海外からの環境客を増やすには、ユネスコの世界遺産、文化遺産、歴史遺産、産業遺産の指定を受けるだけでは十分でないでしょう。遺産は文字通り、過去の遺物です。未来の遺産も必要である。混沌とした将来に向かって世界が進むべき方向を示し、世界が羨む社会システムを構築するのです。それができれば、新しい観光資源になります。日本そのものを観光資源化するのです。日本全体がイノベーションの見本会場になり、メイドインジャパンが世界を制覇することになると期

待されます。

世界が日本に憧れ、日本を模倣する時代、これが **Pax Japonica** です。

◆これからの経営者たるもの

失われた 20 年の間、イノベーションは不要でした。特に経営が指示しなくても生産性は毎年 2% ぐらい向上します。2% の合理化は雇用の縮小につながります。雇用の縮小は生産現場だけではなくありません。やはり、イノベーションの無いホワイトカラー層、管理、営業、研究、技術部門にもおよびます。雇用の削減は、経営者の権限を強くします。結果として、コーポレート・ガバナンスが機能しない大企業も出てきています。

この様な環境下、経営者の役割は業績の管理、予算の必達ではなく、従業員、株主等のステイクホルダーに夢を語り、イノベーションに取り組みやすい環境を整えることだと考えられます。

『無事これ名馬』で経営者となり、企業の進むべき方向を示せないような経営者は要らない」、もう既にそんな時代が変わっているのではないですか。